

令和元年度 第2回 こども・子育て支援会議 放課後事業部会 会議録

- 1 日 時 令和元年12月6日(金) 10:00~12:00
- 2 場 所 大阪市役所 P1(屋上)階 会議室
- 3 出 席 者
- (委 員) 岡田委員、岩崎委員、倉光委員、中谷委員、中山委員、名城委員、
福永委員、藤田委員
- (本 市) 平田こども青少年局青少年企画部長
椿谷こども青少年局企画部青少年課長
九之池こども青少年局企画部放課後事業担当課長 他

4 議題

- (1) 大阪市こども・子育て支援計画(第2期)について
- (2) その他

5 議事概要

上記4(1)の議題について、事務局より報告・説明を行い、質疑応答及び意見交換を行った。

【主な意見】

- (1) 大阪市こども・子育て支援計画(第2期)について

(中谷委員)

「生きる力」とは何かということは示さないのか。

(事務局)

素案の「大阪市における主な課題」の「学校教育における『生きる力』の育成」の項目の中で、生きる力とは、「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」であると記載している。また、基本方向1の本文でも、「自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する能力や、自らを律しつつ他の人と協調し、思いやる心や感動する心、たくましく生きるための健康や体力」と記載している。

(岩崎委員)

「自分によいところがある」と「将来の夢や目標をもっている」の目標値が小学生と中学生で一緒になっているが、年齢が上がるにつれて普通は下がっていく。小学生と中学生で差をつけて、現実的にクリアできる数値にした方がよいのではないか。

(中谷委員)

中学生の目標値が80%でもいいと思う。大阪市の中学生の不登校率は、全国平均より高い状況であり、目標を高く持って取り組むことは必要だと思う。

(福永委員)

調査の対象とする年代によっても結果は変わると思う。中学生は、自己肯定の質問に正直に回答することが恥ずかしいのではないか。

(岩崎委員)

自尊感情は調査の時期等によっても結果が変わってくる。自己肯定感に関する類似調査が多数行われているので、それらの結果も併記したうえで目標値を設定してもいいのではないかな。

(藤田委員)

今回、「いじめはどんな理由があってもだめ」という指標がなくなっている。1期計画で目標を達成していたとしても、いじめに対する取組みは重要なので指標として残しておいてほしい。

(岡田部会長)

はぐくみ指標を4つにすることはできないのか。

(事務局)

基本方向1、2、3ともはぐくみ指標は3つ設定しており、全体のバランスの問題もある。社会的養育の取組は全国的に重要視されており、これまでの集団の中での養育から、現在は、家庭的な環境の中での養育に変わってきている。本市としても重要な取組と位置付け、社会的養育に関する計画を別途策定しているところある。いじめに関する取組みは重点施策と位置付けているので、その中で数値の推移をみていく。

(岡田部会長)

「子育てのストレスから子どもにきつくあたってしまう」という指標があるが、ストレスと自覚している人にはアプローチしやすいが、そもそも自覚がなく、しつけと思って体罰などをしてしまう人はこの数値に入っていない。本来はそういう人たちへの対応が重要である。

(倉光委員)

ストレスと自覚している人を支えていくことは虐待の予防になると思うが、自覚がなく虐待してしまっている人へどうアプローチしていくかが大切となってくる。

(事務局)

保護者に対する啓発も大切だが、子ども自身は自分が受けていることが虐待とはわからないので、学校を通じて、子どもに対する啓発にも取り組んでいく必要がある。

(中谷委員)

学校からも啓発はするが、子どもが保護者に対して危機意識や不信感を抱きかねないという側面もあり結構難しい。

(事務局)

学校だけに任せるのではなく、地域や社会のフォローも必要であると考えている。

(岩崎委員)

今回の計画では、「子どもの人権の尊重」ということを打ち出しているのだから、メッセージとして伝えるという意味も込めて指標として設定しているということではどうか。

(福永委員)

アンケートだけではなく、具体的な施策が大事。要対協ケースとしてあがる前に、地域が関わることが必要である。子どもサポートネットの導入、学校でも困り事が見える化できていることは有効となっている。

(岡田部会長)

この指標は数値が下がればいいという訳ではない。この数値を見て対応していくことが大切になってくる。

(中山委員)

今回、「多様な担い手の育成」というものがあるが、これを市の方針としていても、実際に取り組むかどうかは区長の判断になる。若手の育成は本当に難しいので、市全体で統一した取り組みを行ってほしい。

(事務局)

子ども・子育て支援計画は市全体の計画であり、区長会議でも方向性の説明・確認を行っている。具体的な事業は区長権限で実施することになるが、市として、担い手の育成が必要であると位置づけているということは説明していきたい。

(岡田部会長)

子どもの安全や人権ということが重点施策にない。具体的な施策は区長の権限により実施されるのだと思うが、子どもの安全や人権を守るということをもっと前面に出すことができるか。

(福永委員)

地域ではどの団体もなり手がいなくて困っている。カチッと決めてしまうと誰も来てくれないので、できる範囲で協力してもらい、参加しやすい体制にするなど、担い手を増やしていくためには柔軟に対応していく必要がある。

(岡田部会長)

具体的な施策を立てる時には、何が肝なのかを明確にすることが重要。

(岩崎委員)

文科省が打ち出している「チーム学校」というものが計画の中にあってもいいのではないか。仕組みを作っていくために、チーム学校をどう機能させるかということ。

(名城委員)

平成 27 年度からいきいきは民間委託になったが、委託することによってどう変わったのか。

(事務局)

いきいきの委託事業者は現在 7 事業者。基本的な仕様があるが、それに加え、委託事業者が持っているノウハウを生かし、各学校で様々な取組が行われるようになった。委託事業者がそれぞれ切磋琢磨し、新しい取組が生み出されている。本市でも、30 年度までに P T で検討し、30 年度 4 月より図書や宿題などいろいろな充実策に取り組まれるようになった。

(岡田部会長)

多様性が大切で、いろいろな団体が多様なことに取り組むことで、全体が高まっていくのはとてもいいことである。

(藤田委員)

地元の学校は大規模校で、毎日 100 名超の児童がいきいきに参加している。学校の外にある P T A 図書館なども活用しているが、かなり過密な状態。指導員も足りず、このままでは

こどもの安全安心に不安がある。

(岡田委員)

いきいきがあるほか、放課後のこどもの居場所として、地域には他にもこういうところがあるという施策を進めていくことが大切。多様性が大切である。

(倉光委員)

こどもは地域で育まれることが重要。安全面での課題があることは理解しているが、いきいきは、一旦出ると戻るとはできない。また、地域の人が学校へ入っていくことも必要である。「開かれたいきいき」になったらいいと思う。

(福永委員)

地域の会館で、子どもたちの勉強を教えて、居場所をつくっている。

(中谷委員)

新入生で医療行為が必要な子がおり、「いきいき」でも医療的ケアの子を受け入れることができるよう局を超えて考えていきたいと思う。